

I

■出題の狙い

原始・古代の文化史を中心に出题しました。Aでは、稲作の伝来以降の社会の発展に関するリード文を示し、弥生時代の水稻農耕や、墓制・埋葬法などについての基本的な知識を問いました。Bでは、弥生時代中期以降の貴族の暮らしについてのリード文を示し、貴族の生活や文学・信仰のほか、摂関政治に関しての基本的な知識についても問いました。

■採点講評

- 解答番号1 正答は⑪です。佐賀県の菜畑遺跡から最古の水田跡が発掘された。
- 解答番号2 正答は③です。南西諸島では、貝類などの食料採取を中心とする貝塚文化が展開された。
- 解答番号3 正答は⑩です。北海道では弥生時代から古墳時代にかけて鉄器文化である続縄文文化が展開された。
- 解答番号4 正答は⑨です。山上や丘陵上につくられた高地性集落の代表例は香川県の紫雲出山遺跡。
- 解答番号5 正答は⑫です。周囲を濠や土塁で囲んだ環濠集落の代表例は佐賀県の吉野ヶ里遺跡。
- 解答番号6 正答は⑦です。2世紀の日本列島のようす（倭国大乱）を記しているのは『後漢書』東夷伝。『漢書』地理志には紀元前1世紀の日本列島のようすなどが記されている。
- 解答番号7 正答は④です。①乾田と湿田が逆。②銅矛は青銅祭器。③はじめ石包丁による穂首刈りで収穫されていたが、鉄鎌による根刈りへと変わっていった。
- 解答番号8 正答は①です。②群集墳が出現するのは古墳時代後期。③屈葬が行われたのは縄文時代。弥生時代には伸展葬が行われた。④縄文時代の内容である。
- 解答番号9 正答は④です。X誤り。正装は束帯。直衣は平服である。Y誤り。方違ではなく物忌。方違は凶の方角を避けて行動することである。
- 解答番号10 正答は①です。②阿衡の紛議（887～888年）ではなく安和の変（969年）。阿衡の紛議は宇多天皇の即位の際に行われた藤原氏による示威行為。③重任ではなく遙任。④宇多天皇ではなく醍醐天皇。
- 解答番号11 正答は④です。X誤り。藤原道長の日記は『御堂関白記』。御堂とは法成寺阿弥陀堂のことで、御堂関白とは道長のこと。『小右記』は藤原実資の日記。Y誤り。紀貫之が女性に仮託して著したのは『土佐日記』。『更級日記』は菅原孝標の女の作品。
- 解答番号12 正答は③です。①本地垂迹説は、神は仏の仮の姿とした。②源信（恵心僧都）ではなく慶滋保胤。源信が著したのは『往生要集』。④藤原伊周ではなく藤原頼通。藤原伊周は藤原道長と勢力を争った人物。

II

■出題の狙い

中世と近世の外交史を中心に出题しました。Aでは、中世の日本の外交についてのリード文を示し、倭寇や日明貿易、日朝貿易、またアイヌについても基本的な知識を問いました。Bでは、鎖国にいたるまでの歴史を概観するリード文を示し、朱印船貿易や江戸幕府の禁教政策などについて基本的な知識を問いました。鎖国に関しては、3つの史料を用いて歴史的な流れの理解を問いました。

■採点講評

- 解答番号13 正答は④です。X誤り。前期倭寇は日本人を中心とした。中国人を中心に構成されたのは後期倭寇。Y織田信長ではなく豊臣秀吉。
- 解答番号14 正答は③です。イ李舜臣は豊臣秀吉の朝鮮侵略の際に朝鮮水軍を率いた武将。オ沖縄では北山・中山・南山が争う三山時代が続いていたが、1429年に中山王の尚巴志が三山を統一して琉球王国を建国した。
- 解答番号15 正答は①です。②③4代将軍足利義持が中断させた日明貿易を、6代将軍足利義教が再開させた。④博多商人と結んだのは大内氏、堺商人と結んだのは細川氏。
- 解答番号16 正答は②です。①鴻臚館ではなく倭館。鴻臚館は飛鳥時代から平安時代に大宰府などに設置された外国使節の接待のための施設。③応永の乱ではなく、応永の外寇。④三浦の乱の結果、貿易は衰退した。
- 解答番号17 正答は②です。シャクシャインは江戸時代に蜂起したアイヌの首長。安東氏は十三湊を拠点とした津軽の豪族。
- 解答番号18 正答は③です。キ①サン=フェリペ号は1596年に土佐に漂着したスペイン船。ケ支倉常長は、仙台藩主伊達政宗がスペインに派遣した藩士。
- 解答番号19 正答は④です。①島津久光ではなく島津家久。島津久光は文久の改革（1862年）を推進した人物。②末次平蔵は長崎の豪商。③絹織物を輸入し、銀を輸出した。
- 解答番号20 正答は④です。①福島正則は武家諸法度（元和令）に反したとして改易された大名。②26聖人殉教ではなく元和の大殉教。26聖人殉教は豊臣政権の1596年にサン=フェリペ号事件をきっかけに起こった。③1637年に始まった島原の乱は翌年になって鎮圧された。
- 解答番号21 正答は⑤です。Ⅲ奉書船以外の海外渡航を禁じているので、寛永十年鎖国令（1633年）→Ⅰ日本人の海外渡航を禁じているので、寛永十二年鎖国令（1635年）→Ⅱポルトガル船（かれうた）の来航を禁じているので、寛永十六年鎖国令（1639年）。

III

■出題の狙い

近現代の政治史を中心に出题しました。Aでは、明治維新についてのリード文を示し、江戸城無血開城から地租改正にいたるまで、基本的な知識を幅広く問いました。Bでは、第2次山本内閣から護憲三派内閣にいたるまでのリード文を示し、第二次護憲運動の展開に関する基本的な知識を問いました。

■採点講評

- 解答番号22 正答は④です。新政府側の西郷隆盛と旧幕府側の勝海舟の話し合いにより、江戸城の無血開城が実現した。
- 解答番号23 正答は①です。イ政体書では五箇条の誓文に基づき明治政府の政治組織を定めた。エ版籍奉還後に二官六省制が、廃藩置県後に三院制が採用された。
- 解答番号24 正答は④です。X誤り。御親兵は薩長土の三藩からなった。Y誤り。知藩事にかえて、中央から府知事・県令が派遣された。
- 解答番号25 正答は③です。①鎮台の設置は徴兵告諭（1872年）が出されるより早い1871年のことである。②士族の帯刀が禁じられたのは1876年の廃刀令による。④直接国税15円以上ではなく代人料270円をおさめたものは兵役を免除された。
- 解答番号26 正答は②です。①分地制限令ではなく田畑永代売買の禁令である。③金納のみであった。④地租は従来の年貢収入額から減らさない方針で設定されたため農民の負担は減らなかった。
- 解答番号27 正答は③です。キシーマンス事件（1914年）は第1次山本内閣辞職の理由となった海軍高官の汚職事件。コニ・二六事件（1936年）は陸軍皇道派の青年将校らが起こしたクーデタ。斎藤実・高橋是清らが暗殺された。
- 解答番号28 正答は②です。X正しい。Y誤り。憲政擁護・閥族打破は第一次護憲運動のスローガン。第二次護憲運動では、普選断行、貴族院・枢密院改革、行政整理などがスローガンとして掲げられた。
- 解答番号29 正答は③です。①高橋是清ではなく加藤高明。②治安警察法ではなく治安維持法。④初の男子普通選挙が行われたのは1928年の田中義一内閣のとき。
- 解答番号30 正答は④です。①貴族院ではなく枢密院。②張学良ではなく、父の張作霖。③統帥権干犯問題はロンドン海軍軍縮条約調印に関して起こった。ジュネーブ海軍軍縮条約は不成立であった。また、ジュネーブ軍縮会議に参加したのは田中義一内閣。

IV

■出題の狙い

天武天皇の施策や奈良時代の文化などといった古代に関するものから、高度経済成長期の日本の GNP や公害問題などといった近現代の事象にいたるまで、すべての時代と分野を出題範囲として、基本事項を幅広く出題しました。

■採点講評

- 解答番号31 正答は③です。①四天王寺は厩戸王が建立。②大安寺は745年に平城京に移転した大官大寺が改称したもの。④山田寺は蘇我倉山田石川麻呂が創建した氏寺。
- 解答番号32 正答は③です。X 誤り。中央から派遣されたのは国司のみ。Y 正しい。
- 解答番号33 正答は①です。②紀伝体ではなく編年体。③淡海三船ではなく石上宅嗣。淡海三船は『唐大和上東征伝』の著者。④塑像ではなく乾漆像。
- 解答番号34 正答は④です。①西面の武士ではなく北面の武士。西面の武士は後鳥羽上皇が設けた院の直属軍。②大輪田泊を改修したのは平清盛。③保元の乱ではなく平治の乱。保元の乱は崇徳上皇と後白河天皇の対立などを背景とした争乱である。
- 解答番号35 正答は②です。①③北山文化に該当する。④神仏本迹説（反本地垂迹説）の立場から唯一神道が創設された。
- 解答番号36 正答は①です。②オルガンティノは織田信長の保護を受け、南蛮寺やセミナリオを設立した。③ガスパル=ヴィレラは『耶蘇会士日本通信』で堺の繁栄を記述した宣教師。④フランシスコ=ザビエルは日本にキリスト教を伝えた宣教師。
- 解答番号37 正答は②です。①上杉治憲（鷹山）は寛政の改革前後に藩校興譲館の設立などの藩政改革を行った米沢藩主。③鍋島直正は天保の改革前後に均田制の実地などの藩政改革を行った肥前藩主。④細川重賢は寛政の改革前後に治水・殖産興業などの藩政改革を行った熊本藩主。
- 解答番号38 正答は④です。①ロエスレルは伊藤博文のヨーロッパ派遣より早く来日した御雇い外国人。伊藤博文はベルリン大学のグナイスト、ウィーン大学のシュタインらに学んだ。②華族の範囲が広がった。③大審院ではなく枢密院。大審院は最高司法機関。
- 解答番号39 正答は②です。①井上準之助は浜口雄幸内閣で蔵相を務めた。③斎藤実は岡田啓介内閣で内大臣を務めた。④浜口雄幸は加藤高明内閣などで蔵相を務めた。
- 解答番号40 正答は③です。X 誤り。1968年に日本の GNP はアメリカに次いで資本主義国で第2位となった。Y 正しい。

■全体の採点講評

日本史の問題は、時代から見ると、原始・古代から大問1問、中世・近世から大問1問、近現代から大問1問を出題しています。大問1問のなかをA、Bと二つに分けて、異なる二つの時代の問題を出題していることもあります。Ⅳでは現代に関する問題も出題しています。分野から見ると、政治史、外交史、社会・経済史、文化史のいずれかを重ならないように出題しています。政治史と文化史を混ぜた問題を出題することもあります。全体としては基本的な知識を問うものが多いですが、年代を並べ替える問題、資料を用いる問題も出題しています。

今回の問題の場合、時代の観点からすると、原始・古代は弥生時代から平安時代、中世は室町時代、近世は江戸時代初期の鎖国に至るまで、近現代は明治維新と大正時代から出題しています。どこかの時代に偏るわけではなく、すべての時代を学習することを心がけてください。とくに、近現代はなかなか学習が進まないかもしれませんが、日本史が選択科目になっている知的財産学部も情報科学部データサイエンス学科も、近現代の学習をしっかりと受験生に期待しています。

分野の観点からすると、文化史、外交史、政治史から出題しています。いずれも相互に関連しているので、問ⅠBのように、政治史と文化史が混ざる問題もあります。もしかしたら政治史を入念に学習する方が多いかもしれませんが、いずれかの分野に偏る出題はしていません。日本史が選択科目になっている知的財産学部も情報科学部も、大学に入学してからの学修内容は文化史に関わるものも多いです。文化史にも目を配ってください。

問題の種類という観点からすると、資料問題も出題していますが、資料集をすべて学習することを期待してはなりません。資料集を用いて学習することで、闇雲に暗記するのではなく、その時代のリアルな動きを把握するという学習習慣が身につくことを期待しています。

時代も分野も問題の種類も幅広いですが、大学での学びにも重要な内容ですので、ただ暗記するのではなく、日本史の大きな流れを複眼的に学習してってください。